

イヒナビ

vol.19

ihinavi

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店

～母の日に考える、これからの家族のかたち～

ありがとうを贈るだけでなく
未来の安心も！

超高齢社会へ
これからは「感謝」＋「安心」の提案

人気のギフトは何？

母の日ギフトランキングに見る いまどきの「ありがとう」



(母の日の由来)

母の日といえば「カーネーション」——そんなイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。母の日は、アメリカでアンナ・ジャービスという女性が、亡くなった母親を追悼するため、母親が好きだった白いカーネーションを祭壇に飾ったことから生まれた習慣です。

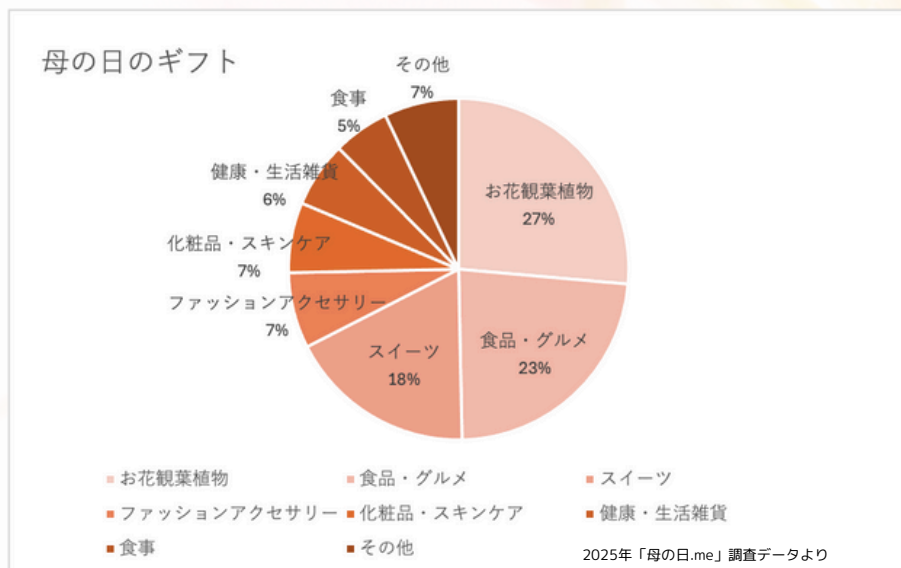
亡くなった母を偲んだ象徴が白いカーネーションだったので、母親が健在な人は赤いカーネーションを胸に飾るようになり、のちに日本でも母の日が浸透した当初、母親が健在かそうでないかでカーネーションの色を区別していました。しかし、母親を失くした子どもが傷つくのでは？となり、現在は赤いカーネーションが主流になりました。

(最近のギフトの傾向)

そんなカーネーションですが、近年のギフトランキングを見てみると、母の日のギフトの傾向は大きく変化しています。上位に挙がるのは、お花の次に食品やグルメ、スイーツ、ファッションやアクセサリ—など「実用的なもの」が多くなってきています。

とくに40～60代の子世代から高齢のお母様への贈り物として、

「日常にちょっとした贅沢を」という想いが込められたギフトが人気を集めています。母の日は、「ありがとう」の気持ちを伝えるとともに、ご家族との関係を改めて見つめ直す、年に一度の貴重な機会。今年はぜひ、「贈り物」だけでなく、「これからの暮らし」についても考えてみませんか？



母の日に考えたい

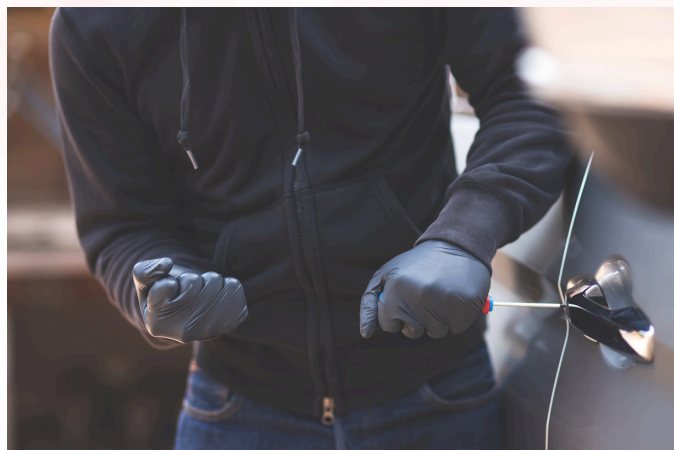
超高齢社会へ これからは「感謝」 ＋ 「安心」の提案を



（超高齢社会とサポート体制）

日本は、これまで経験したことのない超高齢社会に突入しています。総人口に占める65歳以上の割合は30%に迫り、今後もこの傾向は加速していくといわれています。

長寿が当たり前になった一方で、社会全体のサポート体制が十分に追いついていないと言え、高齢者をめぐるリスクは年々多様化・深刻化しています。



（日本も犯罪が急増している現状）

特に近年問題となっているのが、高齢者だけが暮らす住宅を狙った強盗事件や詐欺被害です。

ニュースでたびたび報じられる凶悪なケースを見るたびに、「親を一人にしておいて大丈夫だろうか」「何かあったらどうしよう」と、不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。また、体力の低下により転倒や病気のリスクが高まる一方で、遠方に暮らしていると、緊急時にすぐ駆けつけることも難しくなります。

（二世帯住宅で互いが安心できる生活へ）

「いつも元気そうに見えるから大丈夫」と思っている、ちょっとした不調のサインを見逃してしまうことも少なくありません。だからこそ「親の住まい方」を真剣に考えるタイミングが来ています。離れて心配するよりも、できるだけ近くで見守る。必要なときにはすぐ手を差し伸べられる距離感をつくる。それが、これからの高齢社会における“新しい親孝行”なのかもしれません。

もちろん、急に一緒に住むといっても、生活リズムやプライバシーの問題もあります。しかし、近くに暮らすことで得られる「安心」と、親世代にとっての「生きがい」を両立できる方法が、今、求められているのです。そうした選択肢のひとつとして、二世帯住宅を検討してみる価値が、ますます高まっています。

母の日に考えたい

家族みんなの安心と 幸せをつくる 「二世帯住宅」という選択肢

(超高齢社会とサポート体制)



二世帯住宅と聞くと、「プライバシーが保てるのか？」
「生活リズムが合わないのでは？」と
不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。
しかし近年では、完全分離型や一部共有型など、お互いに心地よい距離感を保てる間取り設計が数多く実現されています。
たとえば、高齢のお母様にとっては「お孫さんのお世話」が日々の張り合いになり、子世帯にとっては、育児や家事の協力が得られるというメリットも。さらに、同居による会話やふれあいは、認知症予防にも効果があるとされ、「家族の時間」そのものが、最良の贈り物になる可能性を秘めています。

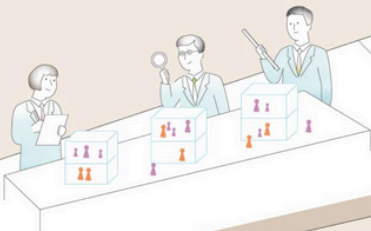
HEBEL HAUSなら二世帯住宅の歴史があるので、様々なパターンをご提案できます

社会変化に対応し二世帯住宅を提案して50年

1975年
「二世帯住宅」誕生



1980年
「二世帯住宅研究所」設立



現代

人生100年時代の到来。
「暮らし」も「ひと」も、
大きな変化が続いています。

50th
二世帯住宅

ヘーベルハウス
二世帯住宅発売50周年



家族が
つながることから
豊かさが
広がる時代へ。

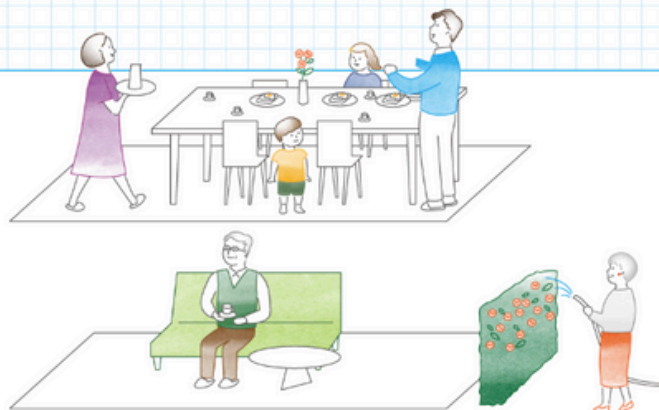
Method



ナイスセパレーション

二世帯の生活空間を上手に分けると 家族の気持ちがもっとつながる

親世帯・子世帯の関係性に応じて日常生活を適切に分けること（実際の生活面でも、また相手世帯の生活を尊重するという意識面でも）で、両世帯の良好な関係維持と同居のメリットにつながります。



間取り事例

FAMILY.

親世帯



母(75歳)

子世帯



夫(45歳)
フルタイム

妻(45歳)
パート



娘(15歳)
中学生

息子(10歳)
小学生

一緒にする場所／分ける場所

親世帯

子世帯



リビング



リビング



キッチン



キッチン



バスルーム



バスルーム



洗濯機



洗濯機



玄関



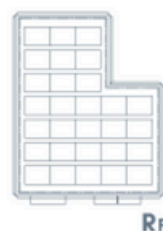
玄関

くっきりセパレート



暮らしを分ける家

世帯ごとのプライバシーを確保し、自立した生活を中心に家族同士の交流を育むプラン。将来の介護や賃貸化への対応を取り入れています。



親世帯ゾーン
子世帯ゾーン
共用ゾーン

＜編集後記＞

今年の母の日、皆さまはどんな「ありがとう」を伝えられるご予定でしょうか。と思い、特集を組みました。

少子高齢化、長寿社会、そして生活環境の変化。

時代は目まぐるしく動き、これまで「当たり前」だった暮らし方も、少しずつ見直しが必要になってきています。

離れて暮らすご両親を思うとき、「もっと近くで見守れたら」「もっと一緒に時間を過ごせたら」そんな気持ちを抱かれる方も増えていらっしゃるはずです。

HEBEL HAUSの二世帯住宅は、単なる同居ではなく、ご家族それぞれが「心地よい距離感で支え合う」暮らしを実現するための工夫が詰まっています。

母の日に、感謝とともにこれからの「家族のかたち」を考える。

そんなきっかけになれば、私たちにとってこれ以上うれしいことはありません。

今後も皆さまの大切なご家族に寄り添える情報を、イヒナビを通してお届けしてまいります。

次号もどうぞご期待ください！